

2021年12月期（第108期） 第2四半期 決算概要資料

日華化学株式会社
(証券コード：4463)

2021年7月29日

1. 2021年度 第2四半期業績

2021年度 上期 経営環境	4
2021年度 第2四半期 決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高 増減要因(対前年)	7
経常利益 増減要因(対前年)	8
化学品セグメント 業績詳細	9
化粧品セグメント 業績詳細	10
連結キャッシュフロー	11
主な経営指標	12
2021年度 第2四半期 決算総括	13
トピックス	14~17

2. 2021年度 通期業績・配当予想他

2021年度 下期 経営環境想定	19
通期業績・配当予想	20
セグメント別 通期業績予想	21







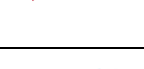

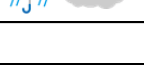

3. 参考情報

財務データ等推移	23
会社概要	24

1. 2021年度 第2四半期 業績

中国市況・自動車分野の回復、流通在庫積み上げによる需要回復が見られ、電子材料・コロナ対応薬剤分野・ヘアケア化粧品ODM分野が好調だったが、繊維加工の一部とサービス産業関連分野はコロナ禍の影響を受けた

■事業分野外部環境等（新型コロナウイルス感染症の影響含む）

繊維加工	日本		一部のカジュアル衣料小売りで回復を見せたものの、スーツ・中高級アパレルは厳しさが続いた 衛生材料・産業資材分野は好調を維持した
	海外		中国は内需好調でアパレル消費・生産とも大きく回復 厳しさは続くも欧米アパレルも一部回復し、生産拠点であるアセアンの繊維加工も上向いた
自動車	日本・海外		販売 1-6月前年同期比/日本(軽含)+12.3% (+24.7万台)、中国+27% (+215万台)、米国(小型トラック含)+29% (+185万台) と回復力強いが足元は半導体不足による供給不足で減少傾向
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙需要減継続、家庭紙・衛生紙、板紙は横ばい
クリーニング	日本		都市部を中心に在宅勤務の影響大、宿泊業・飲食業も持ち直しの動きは見られるが依然厳しい
電子材料	日本		スマホなどのモバイル、PCなどのコンピュータ向け、データセンター向けによる需要伸長
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤/需要、用途が拡大している 手指消毒剤/需要は落ち着き価格競争が激化している 医療用洗浄剤/外来・在院患者減で治療・手術件数減少、健診受診者数減少で需要落ち込み
ヘアケア化粧品	日本		年初からの都市部での緊急事態宣言等もあり、前年比で美容室来店客数は低調も客単価は上昇 ODM需要は今後の回復を見越し好調に推移
	海外		韓国/美容室来店客数に回復傾向が見られたが変異株拡大により再度来店客減となった
数値指標 (前年比)	為替		期中平均 円/米ドル・107.74円で0.6%円高、中国元8.2%円安、ウォン7.2%円安
	国産ナフサ	-	1Q/38,800円(QoQ△13.4%)、2Q予想/47,700円(QoQ+90.8%)

コロナ禍の影響を受けたものの、一部の事業分野で流通在庫の積み上げ等による需要回復が見られ、加えて新規分野や大口受託案件等が伸長し、経費抑制、減価償却費減少もあり、大幅な増収増益となった

単位：百万円

	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	19,753	24,100	+4,346	+22.0%
営業利益 (営業利益率)	339 1.7%	1,413 5.9%	+1,073	+315.8%
経常利益	470	1,596	+1,125	+239.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	175	1,583	+1,407	+801.5%
中間配当 (円)	4	※ 8	+4	—

※ 6円予想から修正

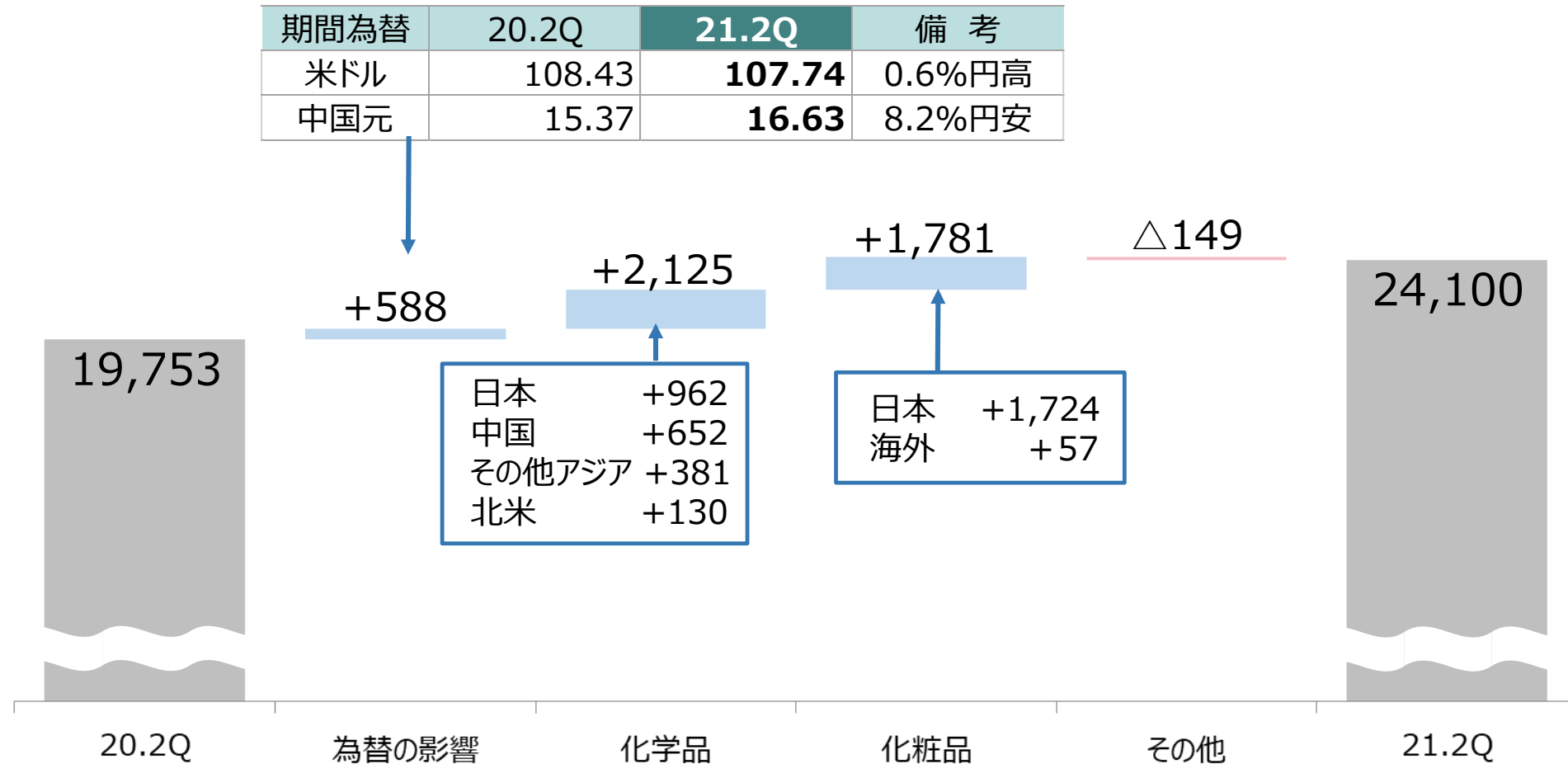
化学品事業、化粧品事業共に大幅増収となり、経費抑制、減価償却費減少も相まって各事業とも大幅な増益となった。中でも化学品事業は前年4-6月にコロナ禍の影響を最も受けた事もあり、同期間比での伸長率が1Q比で顕著となった。

単位：百万円

セグメント	2020年度 第2四半期		2021年度 第2四半期		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	14,004	378	16,665	908	+2,661	+19.0%	+529	+139.9%
化粧品	5,449	801	7,283	1,443	+1,834	+33.7%	+642	+80.1%
その他	300	19	150	40	△149	△49.8%	+20	+102.3%
消去等	—	-859	—	-978	—	—	△118	—
合計	19,753	339	24,100	1,413	+4,346	+22.0%	+1,073	+315.8%

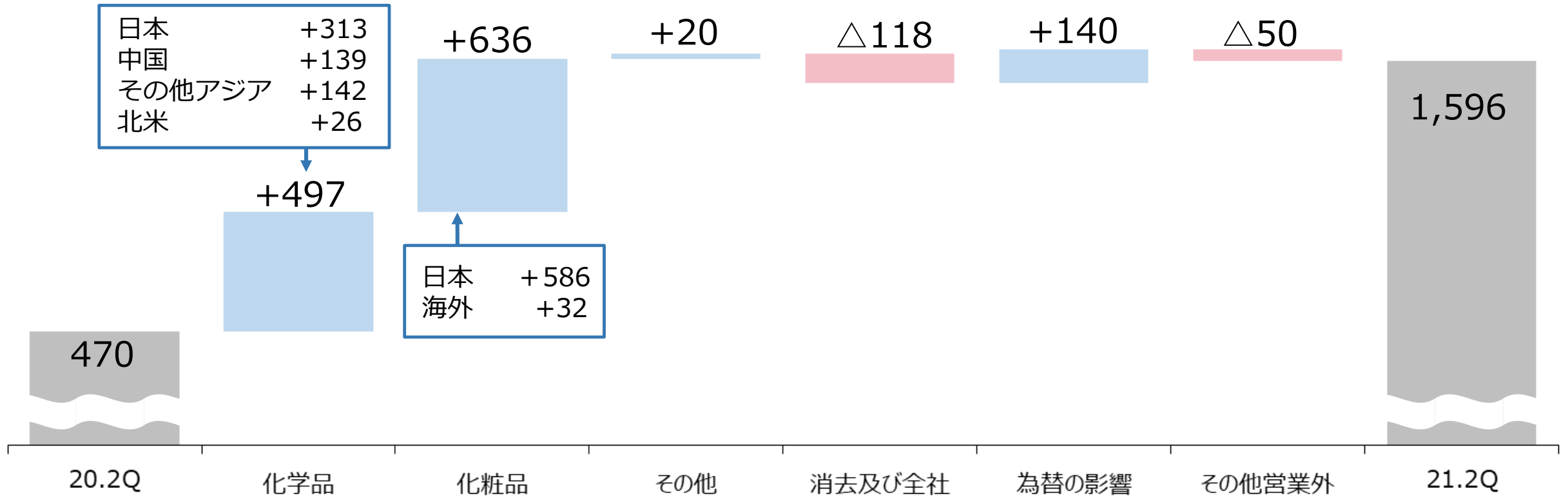
円安による影響で+5.8億円、化学品事業で+21.2億円、化粧品事業で+17.8億円の増収となった
化粧品は国内で大幅増収となり、化学品は全ての地域で増収となった

単位：円



経常利益 増減要因 (対前年)

化学品事業で+4.9億円、化粧品事業で+6.3億円、為替の影響など+1.4億円の増益となった
 化学品、化粧品ともに国内での増益が大きかった

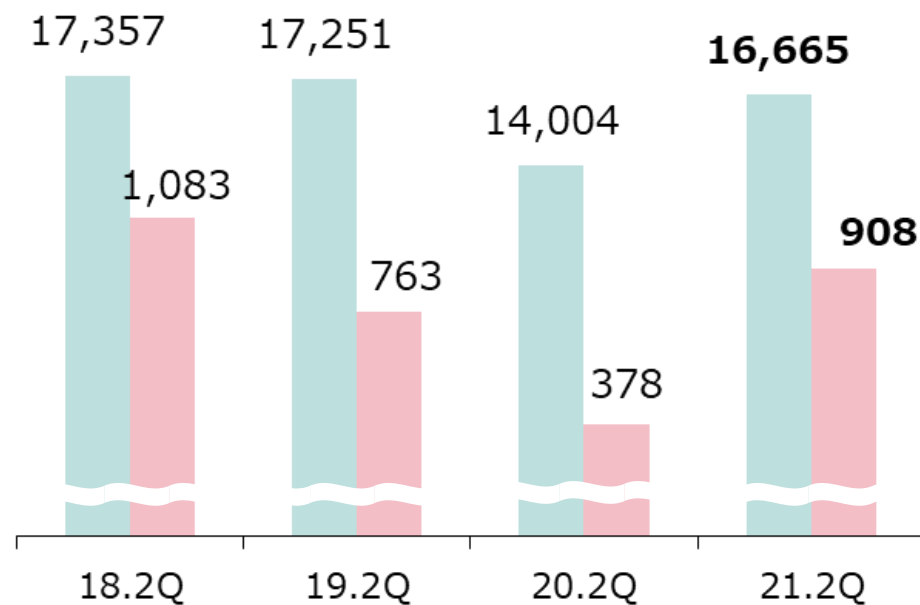


国内外でコロナ禍の影響は残るものの、流通在庫の積み上げ等による需要回復が見られるとともに、電子材料分野や環境衛生薬剤分野の好調等により大幅な増収となり、経費抑制、減価償却費減と相まって大幅増益となった

業績推移

単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



地域別売上高	20.2Q	21.2Q	増減額	増減率
日 本	6,539	7,501	+962	+14.7%
中 国	2,148	3,056	+908	+42.3%
その他アジア	4,865	5,530	+664	+13.7%
北 米	450	576	+126	+28.0%
合 計	14,004	16,665	+2,661	+19.0%

※為替影響 +535百万円

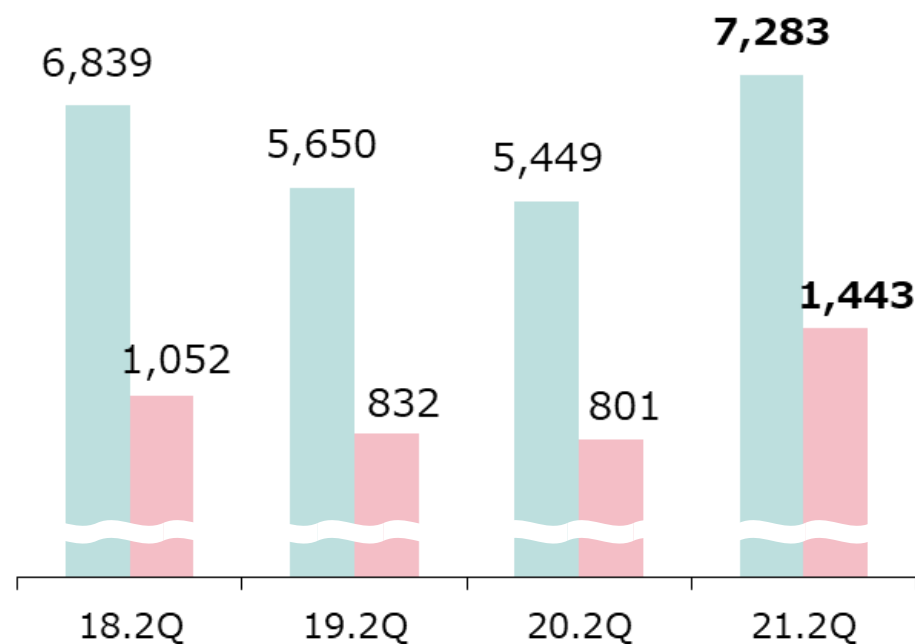
前期比概要

1. 繊維化学品分野は中国国内向け中心に海外で回復
2. 非繊維分野も含めて自動車分野回復も半導体供給不足の影響あり
3. 各地域／増収増益（対アジア通貨 円安による増収含む）
4. 国内／クリーニング、宿泊施設、飲食各業界向け薬剤低調
5. 特殊樹脂モノマー、環境衛生薬剤、フッ素化成品販売堅調
6. 設備投資の減価償却費減少

国内外とも市況悪化の影響は受けたものの、主力ヘアケアブランドの拡販、ODM事業の大口顧客受注増・新規顧客獲得増で大幅な増収増益となった

業績推移 単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



地域別売上高	20.2Q	21.2Q	増減額	増減率
日本	4,770	6,495	+1,724	+36.1%
海外	678	788	+110	+16.3%
合計	5,449	7,283	+1,834	+33.7%

※為替影響 +53百万円

前期比概要

1. 日華化学／度重なる緊急事態宣言による市況悪化の影響を受けたものの主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調
2. 山田製薬／ODM事業の大口顧客受注増・新規顧客獲得増で大幅増収増益
3. デミコリア／美容室来店客数は回復には至っていないものの、新規取引先開拓、新商品効果で増収増益

営業CFはEBITDA26.5億円により、20.6億円を計上

投資CFは有形固定資産の取得、定期預金の預入れがあったが、固定資産の売却により0.2億円の支出

財務CFは借入金の返済27.7億円などにより30.6億円の支出

単位：百万円

連結CF	20年12月期 第2四半期	21年12月期 第2四半期	増減額
営業CF	1,346	2,061	+715
投資CF	-811	-25	+785
財務CF	389	-3,066	△3,456

指標	2020年度	21年12月期 第2四半期	増減額
期末現預金残高	7,962	7,514	△448
有利子負債	16,301	13,492	△2,808

【連結CF】 ■ 当期の概要

● 営業CF +2,061

- ・EBITDA +2,655
- ・法人税支払 -471
- ・運転資金の増減 -88
- ・その他 -35

● 投資CF -25

- ・有形固定資産 取得 -561
- ・有形固定資産 売却 +799
- ・定期預金預入の増加 -234

● 財務CF -3,066

- ・借入金の返済 -2,777
- ・配当金の支払 -292

増益によりROA、ROE、EBITDA、いずれも大幅に向上

自己資本比率は、主に利益剰余金、為替換算調整勘定の増加により大幅に向上

金額単位：百万円

指 標	20年12月期 第2四半期	21年12月期 第2四半期	増減率・額
ROA(営業利益)	1.2%	5.3%	+4.1ポイント
ROE(当期純利益)	1.8%	14.2%	+12.4ポイント
EBITDA	1,680	2,655	+974
(減価償却費)	1,337	1,241	△96
指 標	2020年度	21年12月期 第2四半期	増減額
自己資本比率	39.5%	44.7%	+5.2ポイント

増収増益

売上高 (+22.0%、化学品+19.0%、化粧品+33.7%)

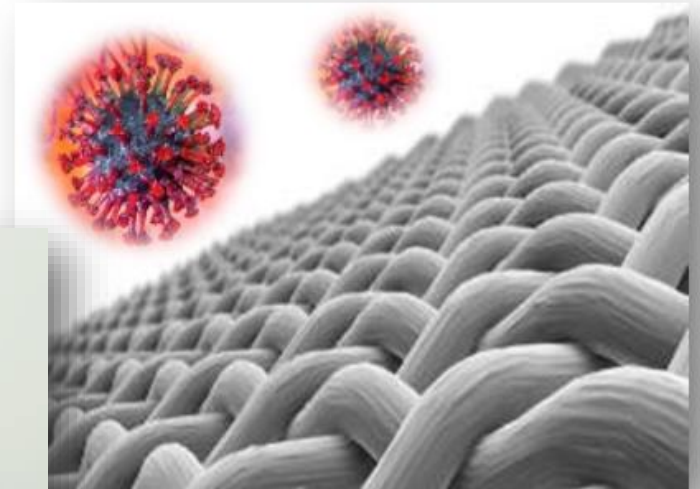
- ・一部の事業分野で、コロナ禍による在庫調整の反動による流通在庫の積み上げ等により需要回復が見られた
- ・化学品／中国国内向け、自動車分野向け、特殊樹脂モノマー、環境衛生関連薬剤、フッ素化成品等がけん引した
- ・化粧品／山田製薬ODM事業において、ヘアケア大口顧客からの新商品増産、新規顧客獲得増により大幅増となり、日華化学単体も堅調であった

営業利益 (+315.8%、化学品+139.9%、化粧品+80.1%)

- ・売上増はもとより経費抑制の効果が大きく寄与した（販管費率が低下した）
- ・売上ポートフォリオが変わった（化粧品比率が増加した）ことで利益率が向上した
- ・化学品は減価償却費減の影響もあった

新型コロナウイルスへの抗ウイルス効果を確認（5月）

- ・ 当社の繊維加工用抗ウイルス・抗菌防臭剤を加工した繊維素材に、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2*）に対する抗ウイルス効果を確認
- ・ 不織布、合成皮革、フィルム、塗料・コーティング等、繊維素材以外の分野へも展開を進めている



* SARS-CoV-2：新型コロナウイルスのウイルス名。Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 の略。
COVID-19は、病名「新型コロナウイルス感染症」Coronavirus Disease 2019 の略。

美容室専売ブランド「EraL(イーラル)」全面リブランド（4月）

「髪も世界も美しく」をコンセプトに

美容室・お客様と一生お付き合いをしていくサステナブルなブランドへ

●サステナブルを強化する4つの取り組み

①世界の美を意識した環境配慮の容器と資材

バイオマスPET、スマートecoパック、FSC認証紙 等



②美容室の未来および美容を目指す若者をバックアップ

イーラル独自の奨学金制度設立
ヘッドキュア*教育のe-ラーニング化、美容学校でのヘッドキュアアカデミー実施、



③植物と科学を融合した機能性処方で、ひとりひとりの悩みをサポート

理想の仕上がりや性別に応じたヘアケア商品とヘッドキュアメニューを組み合わせでご提案



④女性が美しく輝き続けるための最先端エイジングケア*研究

頭皮と髪のみずみずしさを維持し、お客様本来の美しさを支えるケア技術を徹底的に研究し提供



髪も、世界も、美しく。
EraL Beauty & Sustainable



CO2排出量削減への取組み

- ・福井県内事業所（本社・鯖江工場）において、北陸電力のグリーン特約（アクアグリーン）を活用し、**水力電源100%の電力利用に全量切り替え**
- ・日華化学グループ国内主要事業所からの電力由来CO2排出量5,432 t（2020年度）の約半分が**CO2排出量ゼロ**へ

※グリーン特約（アクアグリーン）

北陸電力が高圧・特別高圧の利用者向けに提供する、水力電源100%でCO2排出量ゼロの電気を利用する電気料金メニュー



コロナ禍での地域協力










- ・ 県内中学校より修学旅行生受入れ実施（福井県若狭町上中中学校 他）
- ・ 福井県へマスク10万枚を無償提供（2020年5月に続いて）
- ・ ワクチン接種センターへ手指消毒剤無償提供



2. 2021年度 通期業績・配当予想他

グローバルでコロナ禍の影響がより大きくなる懸念が強い事に加え、流通在庫の積み上げが一巡し、原材料の高騰が続く見通し。依然先行きは不透明な状況が続く予断を許さない

■事業分野外部環境／2021年下期想定

繊維加工	日本		一部のカジュアル衣料は好調を維持するも、本格的回復は不透明 衛生材料・産業資材分野は好調が続く見通し
	海外		中国は引き続き内需好調を維持する見通し 欧米アパレルも回復してきているが生産拠点のアセアン、バングラはコロナ影響あり繊維加工に不透明感あり
自動車	日本・海外		グローバル販売台数は通期で前年同期比12.2%増の見込 各国で生産台数回復も半導体調達難による生産・販売への影響あり
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙需要減継続、家庭紙・衛生紙、板紙は横ばい
クリーニング	日本		緊急事態宣言等が解除されない前提では人の動きが活発化せず回復は厳しい
電子材料	日本		引き続き需要は伸長する見込み
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤／需要、用途が引き続き拡大する 除菌・消毒剤／手指消毒剤の需要は落ち着き、新しい機能の除菌市場が模索される 医療用洗浄剤／緊急事態宣言等が解除されない前提では回復は厳しい
ヘアケア化粧品	日本		コロナ禍第5波の経済活動への影響度合いに左右され先行き不透明感が非常に強い ODM需要は引き続きコロナ明けに向けて回復基調も先行き不透明感が残る
	海外		韓国／美容室入店人数制限等の措置が取られる事から前年下期程度に落ち込む見込み
数値指標	為替	－	前提 下期期中平均 円/米ドル・108円の前提
	国産ナフサ	－	3Q予想/52,800円(QoQ+74.8%)、4Q予想/52,700円(QoQ+68.4%)

グローバルでコロナ禍の影響がより大きくなる懸念が強い事に加え、流通在庫の積み上げが一巡し、原材料の高騰が続く見通し。また活動費の一部増加も見込む。上期比で下期は特に利益面で厳しい状況になる見込みで通期では売上、利益ともに上期比で伸び率は鈍化。年間配当は2019年度実績に復配見込

	2020年度 実績	2月12日時点	7月29日時点	単位：百万円	
		2021年度 直近予想	2021年度 予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	41,179	43,500	46,500	+5,320	+12.9%
営業利益 (営業利益率)	1,416 3.4%	1,500 3.4%	2,200 4.7%	+783	+55.3%
経常利益	1,645	1,500	2,300	+654	+39.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,044	1,300	1,900	+855	+81.9%
年間配当（円）	10	12	16	+6	—

化学品事業は前期の業績減少率が大きかった分、今期の増加率がより大きくなる見込み
化粧品事業は減収減益予想から増収増益予想に修正

単位：百万円

セグメント	2020年度 実績		2月12日時点 2021年度 直近予想		7月29日時点 2021年度 予想		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
	化学品	28,496	842	31,000	1,050	32,500	1,450	+4,003	+14.0%	+607
化粧品	12,175	2,250	12,000	2,100	13,500	2,500	+1,324	+10.9%	+249	+11.1%
その他	506	43	500	50	500	50	△6	△1.3%	+6	+15.9%
消去等	-	-1,720	-	-1,700	-	-1,800	-	-	△79	-
合計	41,179	1,416	43,500	1,500	46,500	2,200	+5,320	+12.9%	+783	+55.3%

3. 参考情報

単位：百万円

項目	2013/2Q※	2014/2Q	2015/2Q	2016/2Q	2017/2Q	2018/2Q	2019/2Q	2020/2Q	2021/2Q
売上高	22,963	19,542	21,999	20,966	23,414	24,752	23,649	19,753	24,100
EBITDA のれん償却額反映	2,974	2,576	2,424	1,722	1,999	2,180	1,703	1,678	2,654
(EBITDA率)	13.0%	13.2%	11.0%	8.2%	8.5%	8.8%	7.2%	8.5%	11.0%
減価償却費 のれん償却額含む	1,103	880	935	840	923	967	933	1,339	1,241
営業利益	1,871	1,696	1,489	882	1,076	1,213	770	339	1,413
(営業利益率)	8.1%	8.7%	6.8%	4.2%	4.6%	4.9%	3.3%	1.7%	5.9%
経常利益	2,062	1,688	1,632	831	1,099	1,266	681	470	1,596
親会社株式に帰属する四半期純利益	1,737	1,129	993	402	571	1,829	329	190	1,583
1株当り四半期純利益(円)	98.74	64.21	58.27	25.64	36.45	116.58	20.95	12.14	100.59
配当金(円)	6	8	8	10	8	8	8	4	8
自己資本比率	39.2%	42.7%	39.3%	35.7%	34.7%	35.7%	37.0%	37.6%	44.7%
ROE	25.8%	13.6%	10.5%	4.7%	6.7%	18.9%	3.3%	1.8%	14.2%
ROA	10.0%	8.4%	6.7%	3.8%	4.3%	4.4%	2.8%	1.3%	5.3%
研究開発費	1,130	984	1,010	1,061	986	1,085	1,022	982	-
従業員数(人)	1,186	1,227	1,359	1,444	1,455	1,490	1,514	1,503	1,472

※ 単体は4-9月

商号：日華化学株式会社（証券コード 4463）

本社：福井県福井市文京4丁目23-1

創立：1941（昭和16）年9月15日

資本金：28億9,854万円

発行済株式数：1,771万株

決算期：12月31日

従業員数：連結／1,472名 単体／604名（2021年6月30日現在）

事業内容：繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所：東証1部、名証1部

Activate Your Life



この資料には、2021年7月29日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 戦略企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com